

セントクラウド州立大学（アメリカ）

今学期は4科目履修することとなりました。

International Security

安全保障に関する講義。国際関係学の理論を使いながら安全保障について考える。ロシアのウクライナ侵攻や、アメリカのアフガニスタンやイラクへの介入についても扱う。

<授業形態> 主に、教授がスライドを使って進める授業

<学生数> 約15人

Introduction to World Politics

国際政治について学ぶ。国際関係論の基礎の理論について学ぶ。

<授業形態> 主にスライドを使った授業

<学生数> 15人

Listening and Speaking

留学生のための英語の講義。リスニングとスピーキングを重点的に行う。

<授業形態> ディスカッション、リスニング

<学生数> 約15人

Cultural Orientation for International Students

留学生向けのカルチャーショックや海外の文化について学ぶ講義。英語の勉強のための講義。

<授業形態> オンライン

<学生数> 約30人

ゲーテ大学（ドイツ）

私が所属している社会科学部ではBuddy-Programを簡単に申し込むことができ、マッチしたBuddyがフランクフルトのことや大学のことについて親身になって案内してくれます。フランクフルトに着いたときも、空港まで迎えに来てくれ、地下鉄や電車、トラムの乗り方を教えてもらいました。また、フランクフルトで生活するうえで必要なことをたくさん教えてもらい、何かあったら相談することができ、安心して海外生活を送ることができていて、本当に感謝しています。そして、Buddyの家に招待してもらい、一緒に日本食を作ったり、カードゲームをしたりと楽しく過ごしています。これからも一緒にいろいろなことをしていくと思うと、とても楽しみです。

そして、留学生向けのイベントにも積極的に参加をし、たくさんの人と交流するようにしています。そこでできた韓国人の友人の誕生日ディナーに参加したり、イタリア人の友人2人とキルギス人の友人と日本人の友人と、日本食ディナーやイタリアンディナーを計画して、お互いの国の料理を振る舞ったりと、楽しんでます。今回は、キルギス出身の友人が中央アジアの料理を作ってくれることになっており、とても楽しみです。

このように、年齢も国籍も異なる友人たちと過ごすことができ、充実した日々を送ることができています。また、会話をしていると友人の英語力や社会に対する関心の高さ、出身国や世界の歴史、社会に関する知識量には毎度驚かされ、私はその会話を聞いていることに精一杯でなかなか自分の意見を言えないときがあります。英語力はもちろんですが、自分の考えを言えるように社会にもっと関心を持つ必要があると強く実感すると同時に、もっと頑張らなくてはと考えています。

ハルムスタード大学（スウェーデン）

私はプレスクールの授業を取っていたつながりで、プレスクールに1日職業体験のようなかたちで訪問させていただきました。

日本と違うのは先生の数。1クラス全員で15人ほどのクラスに先生は3~4人！先生が多いのおかげで、子どもたちの目が行き届きやすく、先生1人の負担も少ないのだろうなと感じました。

特に印象的だったことは、ルールはなく子どもたちの意見や考えを尊重するということです。もちろんもんなで遊ぶ時間もありますが、ほとんどは自由遊びの時間。お昼ごはんは大皿から食べたいものだけを選んで食べる。日本では、お弁当に入っているものは全部食べるということが前提となっているので驚きました。しかし、子どもが椅子の上に立っていたり、柵に登っていたりしても先生はなにもせずただ見ているだけということもあったので、私は少しヒヤヒヤしていました。

1日だけでしたが、スウェーデンと日本の違いを確かめることができ、子どもたちとどうかわるのがよいのか考えるいい機会になりました。とても貴重な経験ができました！



年少クラスの教室



お昼ごはん

タマサート大学（タイ）

バンコクは6月から10月までは雨季の季節でここしばらくはほぼ毎日雨が降っています。しかし、日本のように1日雨が降ることはほとんどなく夕方に激しいスコールが降ることが多いです。急に降り始めることも多いため折り畳み傘は雨季の時期は必須の持ち物となっています。私は日本からは持ってこなかったためタイで購入しましたが、雨季の時期にタイに来るならば必ず持ってきた方がいいと思います。

高麗大学校（韓国）

自分は日本でオーケストラのフルートをやっていたため、いつか韓国でもフルートが出来たらいいなという程度に思っていました。そんな時食堂で仲良くなった韓国人の子が弦楽団に所属していたため、菅楽団とコネク特してくれました。韓国のサークルに入るためには面接が必須で、とても緊張していましたが、無事に合格して菅楽団（吹奏楽団）のようなサークルでフルートを吹くことが出来ています。サークルは主に韓国語で行われているため不安が多かったですが、韓国語を1年程勉強した成果が表れ、意思疎通が思ったより出来ています。また、英語や日本語が流暢な学生がいるため、コミュニケーションが取りやすいですし、日本に興味を持ってくれる学生や行ったことがある学生が本当に多いため、話がよく盛り上がり楽しいです。